

## 平成28年(2016年)1月時点のイサザ資源量の推定

孝橋賢一

## 1. 目的

イサザは、琵琶湖漁業の重要な漁獲対象魚種であると同時に、資源量が大きく増減すること知られている。このため本資源を有効利用するためには、資源状態を把握しておくことが重要である。そこで前年度から引き続き資源量推定を試みた。

## 2. 方法

Nagoshi(1966)および名越(1981)に記載のある漁獲標本データ(以下名越データ)および当場で収集した2011年から2016年のイサザの漁獲標本の体長・体重測定データ(以下水試データ)と漁獲統計から年令別漁獲尾数を算出し、VPAとヒウオ曳のCPUEで補正を組み合わせた幡野ら<sup>1)</sup>の方法に準じて1月時点でのイサザ資源量の推定を試行した。

## 3. 結果

図1に2016年1月に沖曳網により漁獲された体長組成(%)を示した。同様に2011年から2016年の水試データによる体長組成を漁獲統計で引き伸ばして得た年齢別漁獲尾数を用い、VPAの手法により推定した同期間の+0歳魚と+1歳魚の合計資源量は約6~約260トンとなり、2016年は、約202トンであった。

しかし近年(水試データ)は、名越データが採られたころよりも、明らかに漁獲努力量が減少していることがうかがえた(図2)ため、両期間にまたがって同一手法により調査を実施しているヒウオ曳調査におけるイサザの混獲CPUEにより、近年(水試データ)の資源推定尾数を補正したところ、約1.3億~約9.1億尾、現存量は約350~約2,300トンと推定され、2016年は約1,790トンとなり、イサザ資源は、1960~1980年代と同様、依然高水準にあると考えられた(図3)。

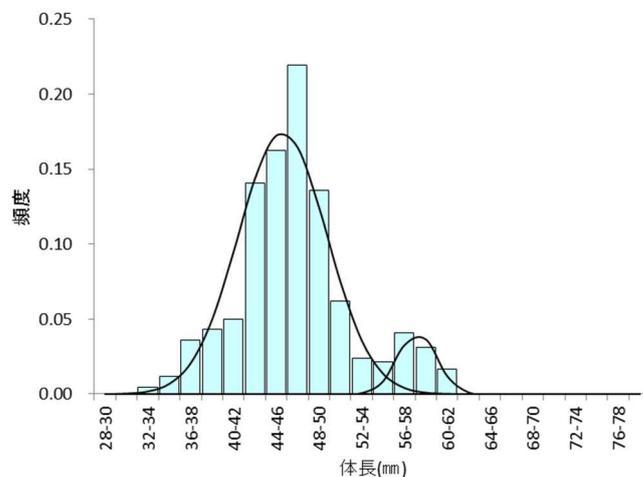


図1 2017年1月沖曳漁獲魚体長の頻度組成

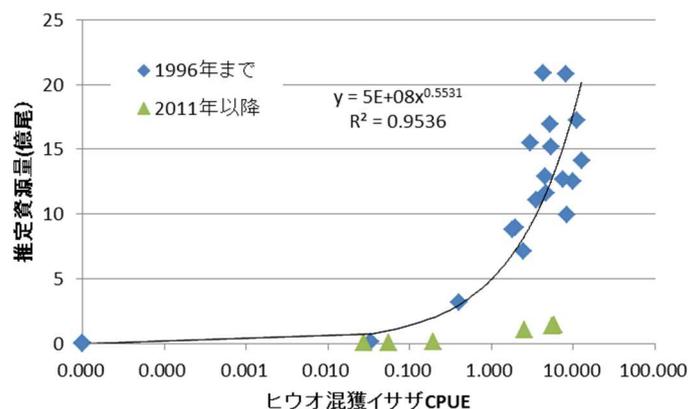


図2 VPAによるイサザ資源量とヒウオ曳CPUEとの関係

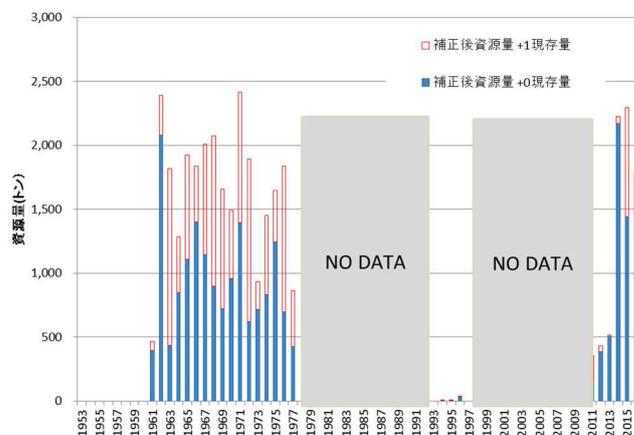


図3 ヒウオ曳CPUEで補正したイサザの推定資源量

引用文献 1)イサザの現存量推定の試み 平成27年度滋賀水試事業報告